



大川市老人福祉センター運営について
永島 幸夫 議員

問 大川市老人福祉センター運営について、令和2年12月議会で一般質問したが、今回さらに質問する。市長答弁で、令和3年度をもって閉館させることを検討していると言われていたが、その後、市議会だよりを見られた方から、とんでもない、使える建物を閉館とは何事だとお叱りを受けている。保健センターへの移管は取りやめてほしい。多くの市民から話を聞いている。子育て支援総合施設も必要であり、されど高齢者の利用施設も必要である。私が信条としている始末、節約、貯金する、使える建物は何でも利用する取組が必要ではないのか。大川市老人福祉センターのボイラーが故障すると、今後、支障があると言われたが、保守点検はきちんと行われており、エアコン設備も新設されている。改めて市長の見解を求める。

答 大川市老人福祉センターについては、令和2年12月議会の一般質問で、保健センターへ機能を移転し、閉館することを検討していると申し上げたが、慎重に検討した結果、令和3年度をもって運営を終了したいと考えています。持続可能な行政サービスを維持するために、公共施設等の総量や配置の見直しを行っており、その結果、老人福祉センター、保健センター、子育て支援総合施設の機能を整理するため、現在の保健センターに老人福祉センターの機能を移転することを決めたものです。また、社会福祉協議会の事務所も施設が老朽化しているため、これを機に、保健センターへ移転するものです。**意見** 入浴施設がなかったら意味がないという方が結構おられる。ぜひ必要であり、今後、6月議会で改めてお願いする。



「新型コロナウイルスのワクチン接種」について
箴島 かおる 議員

問 新型コロナウイルス感染症は、なかなか収束の兆しが見えず、根本的な治療薬もない現状においては、感染防止に非常に高い効果があるとされているワクチン接種について、新型コロナウイルス感染症収束の切り札として、市民の期待は非常に高い。大川市ではどのようにワクチン接種事業を進めようとしているのか伺いたい。

答 ワクチン接種については、万全の接種体制を構築するため、鋭意その準備を進めています。大川三瀬医師会と協議を重ね、接種に協力いただける医療機関や医療従事者の確保に努めています。市民に向けては、接種の予約や相談に応じるコールセンターの開設を予定しており、電話予約のほか、ウェブ予約も可能とする予定です。市としては、停滞した社会経済活動を回復させるべく、接種を希望

する市民が円滑に接種することができるよう、国、県、医療機関等との協働により、万全の接種体制を構築し、実施していく所存です。**問** 大川市では、どの程度の接種率を見込んでいるのか。**答** 70%を見込んでいます。

問 基礎疾患を有する者について、どのような方法で把握されるのか。**答** 予約時には、基礎疾患があることを申し出て、接種時には、事前に送る予診票の基礎疾患の項目にも記入いただくと聞いています。

問 大川市はどのような接種方法を予定しているのか。**答** 医療機関で行う個別接種と集団での接種を考えています。国や県からの情報が変わることもあり、長くお待たせすることもあるかもしれませんが、ご理解願います。市を挙げてワクチン接種に取り組んでいきたいと思っています。



生活環境と公共下水道について
遠藤 博昭 議員

問 大川市のクリークの総延長はどれぐらいか。また、クリークの維持管理、保全はどのように行われているのか。**答** 市内全域に網の目のように張り巡らされているクリークの総延長は300キロメートルにわたっています。また、クリークの共同清掃作業の平成31年度の実績は62件で、行政区単位や農事組合で実施されています。クリークの維持管理、保全については、今後も区長会や各地区の用排水路維持管理推進会を通じて、取組の協力をお願いしたいと考えています。

問 合併浄化槽の普及状況はどのようなになっているのか。**答** 平成13年までは単独浄化槽の設置でよかったが、平成14年から合併浄化槽しか設置できなくなりました。浄化槽設置整備事業に取り組んでいます。単独浄化槽を合併浄化槽に替えるのは、市民の負担が大きく、なかなか進まない状況です。生活排水処理基本計画については、政策誘導のゴールを掲げて、目標を市民と共有できる形をつくっていききたいと思っています。

問 大川市の公共下水道の計画はどのようなになっているのか。**答** 公共下水道は、事業計画区域内の計画的な推進を図るとともに、供用が開始された地区の住民へ水洗化を促進しています。今後の事業計画としては、既事業計画区域

問 一部開通がなされている都市計画道路堤上野線及び上野大橋線の今後の道路延伸計画について、具体的な取組や進捗状況は。**答** 堤上野線は大川中央インターチェンジから向島の新橋水門付近で上野大橋線に接続し、上野大橋線は接続部を起点として、本木室の入道橋東交差点付近で国道442号バイパスに接続する都市計画道路です。堤上野線は、向島の県道水田大川線から国道208号までを2期区間として県事業により進められており、来年度から本格的に用地協議に入ります。上野大橋線は、今年度で暫定完成となる市道郷原一木線の次期事業として進める考えに変わりありません。

問 私は、アンケートによる市民の皆様への聞き取りを行い、214人から回答をいただいた。地域差はあるが、大川に道の駅が必要



都市計画道路堤上野線及び上野大橋線の道路計画について
大川のまちづくり構想について
西田 学 議員

だと考えている方が約70%に対し、現在計画されている大川の駅構想自体を知らない方が約3人に1人おられた。例えば、1つ目の拠点は、古賀政男記念館南の市が所有する三丸公共用地に家具展示場等の商業施設を。2つ目の拠点は、昇開橋麓の国鉄若津駅跡に川の駅と産業歴史館、ものづくり館を。3つ目の拠点は、旧吉原家住宅付近を。4つ目の拠点は、100年の杜計画の風浪宮を。5つ目の拠点を大野島として、この拠点を結び総合的な戦略を立ててみては。

答 大川東及び大川中央インターチェンジによって交通の便が格段に上がり、今ある資源を生かして、多くのお客様に大川をもっと活用していただくのが大事になります。今まで開発が進まなかった要因の1つが土地規制の問題で、本気で取り組む必要があると思います。